

令和4年度 第1回 甲賀市市民参画・協働推進検討委員会 会議録（概要）

【日 時】令和5年(2023年)3月24日(木) 13:00～14:30

【場 所】甲賀市役所別館 1階 会議室101

○出席委員 伊東委員、遠藤委員、葛原委員、竹田委員、辻本委員、中川委員、西野委員、橋本委員、平子(明)委員、平子(幸)委員、山本委員、吉田委員

○事務局 清水総合政策部長、田中市民活動推進課長、築島課長補佐、前田主査

○傍 聴 1人

○会議内容議題

1 委嘱状交付

2 あいさつ

3 自己紹介

4 委員長および副委員長の選任

5 議 事

(1)会議の公開について

(2)令和2年度～令和4年度の開催経過について

(3)令和5・6年度の開催計画について

6 その他

1 委嘱状交付（市長より委嘱状を交付。代表して伊東委員が授受）

2 市長挨拶

年度末の大変お忙しい中、甲賀市市民参画協働推進検討委員会にご出席を賜り、厚く御礼申し上げます。また、皆様方におかれては、地域づくりや絆づくりなどに多大なるご尽力を賜り、重ねて御礼申し上げます。現在、少子高齢化や人口減少が進み、地域のコミュニティが弱体化し社会情勢が大きく変化を遂げるなか、コロナ禍の影響もあり、課題が多様化複雑化しております。これまでに地縁や血縁、社縁などで支えられてきた地域課題の解決が大変厳しい状況となっており、現在、甲賀市では第4の「縁」づくりが求められています。そうした中で、皆様方が果たしていただく役割はますます重要です。今回の委員会からは、地方自治法に基づく附属機関として位置付け、市としても、より重みを持った形で皆様方からのご意見をいただき、市民参画また、協働によるまちづくりを推進し、住民自治の充実につなげて参りたいと考えております。

3 各委員の自己紹介

委員自己紹介、事務局自己紹介

4 委員長および副委員長の選任

事務局案として、委員長を中川氏、副委員長を遠藤氏へお願いする。

一同了承（賛成）

○中川委員長

前の委員会から引き継ぎができるのは私だと思います。連続性を担保しながらも新鮮さも導入していきたいと思います。私は、委員全員が発言をしていくことをモットーとしております。また、附属機関による委員となりましたので、発言が施策に影響を与えるという良い意味がありますので、バックアップとご協力をお願いします。

○遠藤副委員長

中間支援組織の運営に長年携わっていました。甲賀に住んでいらっしゃる個人との関わりはありましたが、甲賀の地域性については、あまり詳しくありません。この委員会を通して甲賀の地域について知っていきたいと思っています。よろしくお願いします。

○事務局

それでは、議事に入らせていただきます。進行については、本委員会設置要綱に基づき、委員長に議長として進行をお願いします。

（1）議事の公開について

○中川委員長

（1）議事の公開について事務局から説明を求めます。

○事務局

附属機関となりました。公開により傍聴も可能となり、議事録におきましても委員の皆様のお名前を明記したうえで、要点記録を作成します。次回の会議において承認いただき、公開となります。委員長よりお諮りをお願いします。

（意見なし）

○事務局

傍聴の申し出がありましたので、許可してよろしいでしょうか。

（異議なし）

（2）令和2年度～令和4年度の開催経過について

○中川委員長

（2）令和2年度～令和4年度の開催経過について事務局から説明を求めます。

○事務局

資料に基づき説明。（意見・質問等なし）

（3）令和5年度の開催計画について

○中川委員長

(3) 令和5年度の開催計画について事務局から説明を求めます。

○事務局

(3) 令和5年度の開催計画について資料に基づき説明。

○中川委員長

共通認識として、行政は団体自治と言い、住民側は住民自治と言います。住民自治組織の代表が自治振興会や区・自治会（コミュニティ型の伝統自治、共同体）。弱体化しているのが地域コミュニティであり、都市型社会では担い手の平均年齢は80歳台。新たな担い手づくりに革命的に取り組む必要があります。一方、地域コミュニティにこだわらないテーマに基づくアソシエーション型の集団があり、この2つの住民自治がしっかりしなければ、すべて行政が実施する方向（ハイコストローパフォーマンス）になってしまいます。

では、各委員より今年度の開催計画等について発言いただきたいと思います。

○西野委員

去年移住してきました。アパートに住んでいると自治振興会や区・自治会に属している認識はないと感じます。甲賀市という大きな地域とについては関心があったり訪れたり、個人単位でつながることはできますが、住んでいる地域については、関心はあるが、実際に入っていけないという現状があるではないでしょうか。

○橋本委員

市の地域福祉活動計画、社協の地域福祉の活動計画に基づく、第2層の協議体（中学校区の協議体）で地域福祉を考える活動を行っています。甲賀町においては、町域で配食活動やサロン活動をされています。各自治会においては、コロナ禍になって停滞してしまいましたが、地道な活動を実施、検討しています。

○平子（明）委員

在住している地域では高齢化が進み、若い世代が転居している状況です。自治振興会の活動に2年ほど関わっていますが、今後の自治振興会についてももう少し詳しく聞きたいと思います。閉園した保育園でコミュニティカフェを運営しており、移住者の方より、どこで情報を手に入れたらいいのかという話も聞いています。移住者の集まりなども実施してはどうでしょうか。

○平子（幸）委員

社会福祉協議会では、様々な活動者と関わりを持っています。コロナ禍になって停滞

してしまいましたが、一方で新たな形態での活動が始まったとも聞いています。地域の子どもの居場所である子ども食堂も現在では、23か所となっており、配食なども行っています。つながりを継続している活動を行っています。このような場面で様々な意見を聞かせていただきたいと思います。

今年度の開催計画については、コミュニティセンターの指定管理についてお聞きしたいです。

○山本委員

自治振興会の理事をしています。新しい若い人たちはいるが、活動に参加する方は少ない。区・自治会や自治振興会への関心度は低いと感じています。一方、年配の方の興味関心は、高いと感じるので若い人との差も大きく、自治振興会事業を実施しても参加者は年配者が多く、若い世代が関わっていただけるように、実施したいと考えています。

行政支援のあり方に自治振興会によるまちづくりについてとありますが、これは非常に大切なこと。自治振興会はこうであるべきではなく、様々な自治振興会のあり方があると思います。

○吉田委員

草津でNPO法人を立ち上げ、地域でできる活動とは何かを遠藤副委員長に相談させていただいた経緯があります。水口の自治振興会の活動に10年ほど関わっており、まだまだ地域の課題の解決には至っていないと感じています。行政から交付金をいただいて事業を実施しても担い手がないため活動が十分できないという現実もあります。

現状を聞きながら、行政支援のあり方など各委員よりお伺いできればと思っています。

○事務局

甲賀市市民参画・協働推進検討委員会より市へ7つの提言をいただきました。

7つの提言については、自治振興会が10年経過し、様々な問題があるということを改めて活字化し、共有を図るものです。中でも、自治振興交付金の運用については、補助金ではなく、地域のなかで活用の幅をきかせて運用するものです。そのなかであっても、手引きに基づく解釈の違いもでている状況があります。事務局経費、返還金について見直しを図り、使途等について弾力的かつ柔軟に活用できないかと検討しているところです。

また、地域支援の拠点となるコミュニティセンターにおいて23自治振興会の支援を行っています。市の公民館や地域の集会所などに拠点があり、一定制約もあるなかで、コミュニティセンター化を行い、コミュニティビジネスなどの可能性のある拠点づくりをしたいと考えています。また、地域が行う指定管理を導入できないかと検討しているところです。

○辻本委員

区長という立場で参画させていただいています。2日前ほどに区長代表者連絡会に出

席させていただきました。地域にいると高齢化のスピードを感じており、地域は限界にきていると思います。地域には、区はもちろん、財産管理をしている管理組合や自治振興会があります。生活を支える水源の管理や不法投棄対策など管理運営をしているのは、区であり管理組合であり、自治振興会です。地域については、改革したいと思っても、抵抗勢力もあるのが現状です。

私は、税収の減収による行政サービスの低下は仕方がないと思っはいますが、なくずしではいけないと思います。ここまでは地域が頑張る、行政が頑張るという5年10年先のビジョンを行政は示すべきです。

甲賀市では、多くの保育園が閉園となっています。保護者が必要とする保育園は閉じるべきではなかったと思っています。小学校については、一定のエリアで統廃合を行いスクールバスの運行するのはどうかと思っていました。

まる一むや新しくなる水口中央公民館については、懸念していることもあります。

中間支援については、中高生などの子どもたちに考えてもらうのはいかがでしょうか。

○竹田委員

岩上自治振興会はこれまで区長会を構成し事業中心で進めてきました。ここ数年は、地域課題の解決に事業予算を投じることができるようになっています。今までは、何かあれば市へ要望をしていたが、住民に呼びかけ、振興会が中心となり住民や行政と協働しながら解決していきたいと考えています。岩上地域では、保育園が閉園しました。子育て世代が集まる場所がなくなったことも問題だと感じています。岩上地域市民センターを中心に居場所づくりや事業を行いたいと考えており、この場でも様々なアイデアをいただければと思います。

○葛原委員

コロナ禍になってから、自治振興会のイベントは半分以下になりました。それがきっかけとなってか、負担感を感じて事業が縮小している部分もあります。また、家族ごと都市へ転居されることも伝え聞いており、担い手不足に危機感を感じています。

○伊東委員

市民公益活動の拡がりということに関しては、女性の社会復帰を応援する活動を行っているMINORILabと出会い、それがきっかけとなり、様々な人との出会いを感じさせていただいたという経験があります。上手に協働を目指していくのは理解できますが、枠や仕組みを作るとうまく機能しなくなる。結局「人」なのかと感じている部分もあります。

○遠藤副委員長

長く市民活動支援に携わっているので、地域コミュニティである自治振興会のあり方や運営については想像以上に大変であると感じています。東近江市に6年関わっており、

まちづくり協議会との関係性についても中間支援組織としてなかったのですが、話を伺う機会があり、そこから、関係性が育まれた。最初は「人」からつながっていくものだと思いますが、それをいかに組織的にすることのむずかしさを感じると同時に、アソシエーション型から入り込んでいく期待も感じています。

○総合政策部長

幼稚園保育園の再編については、国の方針により、財源確保について限りがあるなかで民営化を進めるほかない現状でありました。小学校については、再編検討委員会でご議論いただいた経緯があります。学校再編を地域の皆様のご意見を伺いながら進めるというのが市としてのスタンスではありますが、一方で市としての方針をしっかりと持つべきという意見もあります。

ランドデザインとして、地域の皆様と甲賀市の職員が一緒になり将来を描いていくことが重要であると考えているところです。

市としての方針については、地域事情は様々であり、一律一辺倒で定めることができないという実情もあると考えております。

○中川委員長

皆様のご意見は大変重要であります。自治振興会、自治会、区等の構成および行動意思決定の原理とアソシエーション型組織の意思決定原理は違います。自治会等においては、多数決で決めてはいけません。一人でも異議があるものについては、何故かという点についてみんなで考える。最大公約数的にでもみんなが賛成（納得）できるところまでもっていく必要があります。地域には地域の掟があるのです。一方、アソシエーション型は、志で結集している集合体であり、物事の決定については多数決を原則としながら少数者の意見も反映するというルールがあり、双方の違いを理解する必要があります。

担い手、人材不足については、生涯学習の転換をお願いします。時間とお金と体力と家族に恵まれた人が行う生涯学習について、否定はしませんが、それで人材を使い切っていることが問題であると考えます。時間や体力、お金や家族がない人にはどうするか、知り合いが全くいない新規転入者にはどうするかというプログラムを積極的に開発しなければ社会の担い手、リーダーは育たないのです。アイデアを提案することがこの委員会に望まれていることではないでしょうか。地域でしかできないことを地域でやるということに気づいていただきたいです。

今だけ、ここだけ、自分だけを変えることも必要です。これからどうなるか、となりはどうなるかという視点を持ってほしいと思います。

財産区については、自治振興会で取り扱うことは望ましくないと考えます。自治振興会の理事会に入ることはいいが、地域振興会として扱うとややこしいことになるためです。

6. その他

○事務局

第2回の会議については5月または6月ごろに開催を予定しています。日程調整については、改めて通知させていただきます。

閉会